



【学校教育目標】進んで学ぶ子 仲よく協力する子 健康でねばり強い子

高倉小だよい

笑顔いっぱい 喜びが得られる 地域の中にある学校

令和6年12月

児童数241名



叱るということ

校長 武田 功一

7月の学校だよりは、「ほめるということ」をテーマにお伝えしました。今月はその逆である「叱るということ」「叱られるということ」をテーマにお伝えします。

子どもたちは、一人ひとり違います。叱られた時の受け止め方も様々です。真剣に自分の言動を振り返り、これから自分のこうありたい姿を考えられる子、自分は関わっていないことなのに、自分の事のように深く受け入れる子、自分には関係ないと割り切る子、反省すべき自分の行為を棚に置き、他の人のせいで叱られていると考える子、早く話が終わらないかなと思っている子、など様々です。

受け止め方も様々なら、叱り方も様々あってもいいのかもしれません。どの子にも効果てきめんの叱り方は、なかなか見つけられません。元気いっぱいの子には、悪かったことを簡潔に。繊細な子には、諭すように。突発的な行動をしてしまった子には、なぜその行動がいけないのか自分の言葉で話させる。親でも教師でも、その子の受け止め方を考え、いろいろな方法を試しながら叱ることで、その子の心に響く叱り方が見つけられることだと思います。一方、多くの子は、自分がした失敗に気づいています。自分が悪いとわかっていることを、さらに言われると嫌な気分になる子もいます。そんな時は、一人称を主語としてお話してみましょう。つまり、「あなたは、どうしてそんなことをするの?」ではなく、「先生は、〇〇と思っている。」「お母さんは、〇〇と考えている。」という感じです。

しかし、世の中に出たら、自分の性格を考慮して叱ってくれることはないでしょう。子どもたちには、叱られた時、どのように受け止め、活かし、立ち直るか、つまり、叱られ方を身につけてほしいと思っています。叱られたのはその子の人格ではなく、言動です。したがって、その言動を改善すればいいのです。誰でも叱られることはあります。私もたくさん叱られました。反省する必要はあるけれど、必要以上に落ち込むことはありません。ただ、私の主觀ですが、叱られることが苦手な子が増えてきていると感じます。叱ってくれる人は、自分の事を大切に考えててくれて、たくさん期待してくれる味方だと考え、叱られ方も身につけてほしいです。

叱
る

- 悪かった言動だけを叱る
- 人格を否定しない
- 時間は短く
- なぜ悪いのか理由を理解させる
- 自分の言葉で説明させる
- あなたは大切な存在であると伝える
- その後の言動をあたたかく見守り、評価してほめる
- ・叱られ方を身につけるためにも、上手な叱り方を実践したいものです。

「わかっているけど、やさしく諭すように言ってわかるようなら苦労しないよ。」「叱らないですむなら、叱りたくないよ。」という声が聞こえてきそうです。じっくり考えるだけでも、子どもへの理解が深まることと思います。実践してみませんか。

12月



- 4日 お話朝会 やまばと号
 5日 委員会 1～4年4時間
 6日 美化デー 通学班班長会議
 9日～大掃除週間（13日まで）
 10日 あすなろショップ訪問 すみれ
 11日 あおぞらタイム やまばと号
 12日 クラブ 1～3年4時間

- 16日 たてわり学級会
 17日 5時間 租税教室6年
 18日 4時間 賞状伝達朝会
 19日 4時間 給食最終日
 20日 3時間
 23日 3時間
 24日 3時間 終業式



冬季休業日 12月25日（水）～1月7日（火）

高倉小いろいろ



3年生が手もみ茶体験を行いました。何度も手もみをして、自分たちで作ったお茶の味は格別でした。



学び合い学習の様子です。キャッチボールの作戦を立てるのに、それぞれの考えを聞きあいながら作っていました。



音楽朝会で、6年生が合唱を披露しました。在校生から、「さすが、6年生。」と大きな拍手がわきました。



鉄棒チャレンジのオリエンテーションで、運動委員の児童が素晴らしい技を見せてくれました。



学校にふさわしい音、ふさわしくない音というテーマで、お話朝会がありました。ふさわしい音が増えるよう、意識して取り組んでいます。



2年生が、落ち葉等を使って、秋祭りを行いました。「いらっしゃいませー」の元気な声が飛び交っていました。